

主要産地における令和6年度産水稲の生育状況等について 第14報 (最終) (令和6年9月11日取り纏め)

作成：公益社団法人農安定供給確保支援機構情報部 (令和6年9月12日)

道府県	区分	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)		技術・防除・気象等関連公表資料 (自治体・気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
		生育状況等	年々、指標等に対する遅速等		
北海道	(生育/作柄)	<p>(9月1日現在)</p> <p>(全道) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道農政部 9月3日付)</p> <p>(支庁) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道空知総合振興局 9月3日付)</p> <p>(石狩) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道石狩振興局 9月3日付)</p> <p>(紋別) 作物の生育は平年より早く進んでいる。(北海道後志振興局 9月3日付)</p> <p>(網走) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道網走総合振興局 9月3日付)</p> <p>(日高) 生育の遅速について、昨年ほどではないものの、平年より早く進んでいる。(北海道日高農業改良普及センター 9月3日付)</p> <p>(釧路) 出穂以降の遅速により、生育は早く進んでいる。(北海道釧路総合振興局 9月3日付)</p> <p>(根室) 生育は早く進んでいる。(北海道根室総合振興局 9月3日付)</p> <p>(上川) 生育はやや早い。(北海道上川総合振興局 9月3日付)</p> <p>(留萌) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道留萌振興局 9月3日付)</p> <p>(オホーツク) 生育は平年より早く進んでいる。(北海道オホーツク総合振興局 9月3日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)</p>		<p>(全国) エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態と見られるが、ラニーニャ現象時の特徴に近づきつつある。今後、冬にかけて平常の状況が続く可能性もある。(40%)。ラニーニャ現象が発生する可能性の方がより高い(50%)。(気象庁 9月10日付)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>・「ななつぼし」及び「ゆめびりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 令和6年9月12日) (出典資料は以下同じ)</p>
		青森	<p>(9月2日現在の発熟状況)</p> <p>・発熟歩合はいずれの品種も平年を上回り、「はれわたたり」は77.0%で9.7ポイント、「まっしぐら」は84.7%で13.7ポイント、「青天の霹靂」は88.9%で17.7ポイント高かった。(地独) 青森県産米技術センター-農林総合研究所 9月6日付)</p> <p>(生育/作柄) ・8月15日現在の作柄概況は「良」(農林水産省 8月30日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は9月15日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p>
岩手	(生育/作柄)	<p>・県全体の出穂率(50%)は平年よりも3日早い9月1日であった。発熟期間中の気温は平年よりも高く推移しており、出穂期からの積算気温950℃(刈始めの目安)の到達は、県全体で平年よりも2日早く進むと予想される。(岩手県 8月29日付)</p> <p>・北上では「ひとめぼれ」および「銀河のしずく」ともに高品種も平年より2日早く出穂期に達した。また、軽米では「いわてっこ」が平年より4日早く出穂期に達した。(岩手県農業センター 8月30日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は9月15日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
		宮城	<p>(登米) (移植栽培) 出穂後25日調査時点の生育状況は、管内の生育調査区の「金のいぶき」については、m当たり穂数、1穂数が平年を上回ったため、m当たり穂数が平年を上回った。発熟段階の「ひとめぼれ」は生育調査区の「ひとめぼれ」と比べ、m当たり穂数は少なかったが、1穂数が多くなりm当たり穂数はほぼ同等となった。(宮城県登米農業改良センター 9月6日付)</p> <p>(奥平) (出穂後25日調査結果)</p> <p>・稈長はどの品種も長めの傾向。「ひとめぼれ」は穂数がかなり多いため、平年より穂数がかなり多くなっている。「つや姫」など平年値のない品種も、穂数、穂数が多い傾向がある。(宮城県奥平農業改良センター 9月9日付)</p> <p>(大河原) 今年は、出穂後の気温が平年よりも高く推移したことから、刈取適期に達する日数が短くなっている。(宮城県大河原農業改良普及センター 8月29日付)</p> <p>(亶理) (移植栽培) 出穂期は平年より5～7日早くなった。収穫時の目安(移植栽培)と比較すると、「ひとめぼれ」は、稈長、m当たり穂数、m当たり穂数とも概ね目安通りとなった。「たて正夢」は、稈長が長く、m当たり穂数は概ね目安通り、m当たり穂数はやや少なかった。「つや姫」は、稈長が概ね目安通りだったが、m当たり穂数、m当たり穂数はやや少なかった。(宮城県亶理農業改良普及センター 8月29日付)</p> <p>(栗原) 本年の栗原管内の出穂期は7月31日で、平年より2日早くなった。(宮城県栗原農業改良普及センター 8月23日付)</p> <p>(気仙沼) 管内の出穂期は8月1日となり、平年(過去5か年の平均)より3日早く、また、出穂以降の気温が高めに推移していることから収穫時期は早まると見込まれる。(宮城県気仙沼農業改良普及センター 8月23日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は9月15日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p>
秋田	(生育/作柄)	<p>【本日の生育(移植栽培)】(秋田県 8月23日付)</p> <p>① 出穂状況調査 各地域振興局調査による出穂期は、全県で8月1日(平年差-1日)であった。地域別みると、県北は7月31日(同-2日)、中央では7月31日(同-1日)、県南では8月1日(同-1日)であった。</p> <p>② 定点調査結果 定点調査結果(8月20日調査)では、「あきたこまち」(県内64地点)のm当たり穂数451本(平年比101%)、1穂当たり着粒数74.6粒(同101%)、m当たり穂数33.4年粒(同102%)といずれも平年並であった。また、出穂期は7月30日(平年差-2日)であった。「ひとめぼれ」(8地点)は、m当たり穂数484本(平年比97%)、1穂当たり着粒数86.4粒(同97%)、m当たり穂数32.1年粒(同95%)であった。平年に比べ、m当たり差数、1穂当たり着粒数ともにやや少なかった。また、出穂期は9月1日(平年差-2日)であった。</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は9月15日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
		山形	<p>(発熟状況)</p> <p>・9月3日現在の発熟歩合(県内平均8地点の平均、各農業技術普及課調べ)は、「はえぬき」83.1%、「雪若丸」75.5%、「つや姫」78.0%となっており、いずれの品種も平年に対して発熟は早く、特に「つや姫」は平年に比べて20ポイント高くなっている。また、「はえぬき」「雪若丸」の青熟歩合は、2割以下となっている農場が見られる。(山形県 9月6日付)</p> <p>(酒田・飽海) 生育診断書の9月3日現在の発熟は、積算気温、暦日で見て平年より早く進んでいる。一方、青熟歩合は「はえぬき」で6割、「雪若丸」で7割と高い状況となっており、本年は「ふくひびき」「ひとめぼれ」を中心に現状に近い農場が多く見られる。(山形県庄内総合支庁酒田農業技術普及課 9月6日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は9月15日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p>
福島	(生育/作柄)	<p>(9月9日現在)【農業総合センターの作柄解析試験における生育調査】</p> <p>・農業総合センターの生育調査における「コシヒカリ」の出穂期は、平年より2日から6日早まっている。出穂後の気温が高く経過したため、成熟期も早まる見込み。 ・なお、刈取始期の目安となる出穂後の積算気温1,000℃の到達日は平年の成熟期より早まる。稈長が伸びているほ場では、倒伏が発生している。(福島県農林水産部農業課 9月9日付)</p> <p>・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は9月15日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。また、オリジナル品種「とちぎの星」が定着している。</p>
		茨城	<p>・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)</p> <p>(作柄)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は9月15日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p>
栃木	(作柄)	<p>・8月15日現在の作柄概況は「やや良」(農林水産省 8月30日付)</p>		<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で平年並が多く、太平洋側で、ほぼ平年並、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信地方は9月15日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。</p>

(生育状況等)			
千葉	(作物) ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は平年並が多い見込み。(気象庁) 関東甲信地方は9月15日頃からかなりの高温。(気象庁)	・「コシヒカリ」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。今年度年産から新品種「粒すけ」の本格栽培の開始
新潟	(生育/作物) (村 上)「新之助」(村上農業普及指導センター 9月5日付) ・管内の平均出穂期は8月13日で、前年より2日程度遅れたが、近年に比べ2日程度早まった(近年:8月15日)。 ・適切な穂粒対応等により、出穂後の葉色は、指標値より遅く推移している。 ・出穂期は発生適地帯に収まり、収穫時期は平年より早まる見込み。 ・豊熟期間の高温により、胴割れの発生リスクが高まっている。 一部は増産も期待される見込み。 ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台) 北陸地方は9月15日頃からかなりの高温。(新潟地方気象台)	・「コシヒカリ」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきあかり」「つぎあかり」及び「あまのぼろ」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」(発生期)の作付拡大を推奨している。
富山	(作物) ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台) 北陸地方は9月15日頃からかなりの高温。(新潟地方気象台)	・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿でも品質が安定している「てんかかく」及び「つぎあかり」等のトップクラスに位置づけている「富富富」が増加傾向にある。
石川	(生育/作物) ・現在、早生は収穫期、中生は豊熟中期～後期、晩生は豊熟中期となっている。(石川県農林総合研究センター 8月23日付) ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台) 北陸地方は9月15日頃からかなりの高温。(新潟地方気象台)	・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル品種「ひやくまん穀」が増加傾向にある。
福井	(生育/作物) 【「コシヒカリ」・「いちほまれ」豊熟状況】 ・農業試験場の「コシヒカリ」・「いちほまれ」は、共に収穫適期の水分になっている。両品種とも、出穂後が高温であったことから、胴割れしやすい条件になっている。また、「コシヒカリ」は既に胴割れの発生が確認されている。早生品種では、斑点米による等級落ちが多く見受けられる。中生品種以降も同様に発生が多いことが予想される。(水田農業ヘルプアップ委員会技術普及推進部会 9月9日付) 【「いちほまれ」豊熟状況】 ・農業試験場の「いちほまれ」は、積算気温による成熟期予測より早く、既に収穫適期の水分になっている。また、既に胴割れの発生が確認されている。早生品種では、斑点米による等級落ちが多く見受けられる。中生品種以降も同様に発生が多いことが予想される。(水田農業ヘルプアップ委員会技術普及推進部会 9月10日付) ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台) 北陸地方は9月15日頃からかなりの高温。(新潟地方気象台)	・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成である。「いちほまれ」が増加傾向にある。
長野	(生育/作物) 【9月8日現在の生育状況】(松本農業農村支援センター 9月11日付) ・成熟期予想では、成熟期は平年より10～14日程度早まっていると思われる。 ・県庁所在地の「あきたこまち」の成熟期は8月28日で平年より10日早、「コシヒカリ」の成熟期は8月9日で平年より1日早だった。 ・現地での生育状況は以下の通りと思われる。 ○早生品種(「あきたこまち」・「奥山錦」・「つきあかり」等):収穫終了 ○「コシヒカリ」 ・4月～6月上旬:収穫終了～収穫遅れ ・5月上旬:収穫適期～収穫遅れ ・5月中旬:収穫適期～収穫遅れ ・5月下旬:収穫適期～豊熟後期 ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は平年並が多い見込み。(気象庁) 関東甲信地方は9月15日頃からかなりの高温。(気象庁)	・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成であるが、近年、品種構成に変化はない。県オリジナル品種「風さかか」の導入を推進している。
滋賀	(生育/作物) (農業技術振興センター 水稲作況調査) ・出穂期は、「みずかがみ」が7月21日(平年より2日早い)、「コシヒカリ」が7月24日(平年より3日早い)、「きらみずき」が9月5日であった。 ・成熟期は、「みずかがみ」が8月21日(平年より2日早い)、「コシヒカリ」は平年よりやや早い見込み。(滋賀県農業技術振興センター 8月23日付) ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大津管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で平年並が多い見込み。(気象庁大津管区気象台) 近畿地方は9月15日頃からかなりの高温。(気象庁大津管区気象台)	・「コシヒカリ」・「キヌヒカリ」・「みずかがみ」及び「日本錦」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿に際しては「コシヒカリ」の作付けが推進されている。
兵庫	(生育/作物) (8月30日現在) ・県北部では、「コシヒカリ」の出穂期が平年より7～7日早まっている地域もあることや、豊熟期間中かなりの高温で経過していることから、成熟期の地域や期間で早まると思われる。 ・県南部の出穂期において、播種生品種の「キヌヒカリ」は平年より2日早く、「どんこい」は3日早く、中生品種の「きぬむすめ」は平年より3日早く、「ヒノヒカリ」は1日早く、晩生品種の「山田錦」は平年並であった。穂数は平年に比べ、「キヌヒカリ」「どんこい」は少なく、「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」は多く、「山田錦」はほぼ同じであった。このように、生育期間中かなりの高温で経過したなかで、品種によって生育経過が異なった。今後も高温傾向で経過することから、成熟期は品種や栽培管理でかなりばらつきが生じる可能性がある。(兵庫県農林水産部 9月4日付) ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大津管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は日本海側でほぼ平年並、太平洋側で平年並が多い見込み。(気象庁大津管区気象台) 近畿地方は9月15日頃からかなりの高温。(気象庁大津管区気象台)	・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。
岡山	(生育/作物) ・稲(晩生種)の生育は平年並である。(岡山県病害虫防除所 8月28日付) ・中生品種「きぬむすめ」の出穂が始まっている。(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術担当会議 8月21日付) ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台) 中国地方は9月15日頃からかなりの高温。(気象庁広島地方気象台)	・「アケボノ」・「きぬむすめ」の「コシヒカリ」及び「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。
広島	(作物) ・8月15日現在の作物概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)	【向こう1か月の天候の見通し 9月7日～10月6日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み、降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み、降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台) 中国地方は9月15日頃からかなりの高温。(気象庁広島地方気象台)	・「コシヒカリ」・「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。

(生育状況等)			
愛 媛	<p>(8月10日現在) 「ひめの源」(愛媛県農林水産研究所内水田ほ場)</p> <p>- 6月21日移植、移植後50日頃の茎数は 28.4 本/株で、昨年と同程度。 (愛媛県農林水産研究所 8月14日付)</p> <p>(生育/作柄)</p> <p>- 8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月7日～10月6日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は9月15日頃からかなりの高温。 (気象庁高松地方気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」「ひめの源」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>【普通期稲】(8月月報)</p> <p>- 高温少雨により生育不良となったほ場が一部で見られたものの、全体的には概ね順調に生育している。出穂期は「ヒノヒカリ」、「時の夢」で8月第2～3半旬頃「にこまる」で9月第1～4半旬頃であった。収穫開始は平年並かやや早く、9月中旬頃となる見込みである。既収米カメムシ類による被害や、台風による浸収が懸念される。 (高知県病害虫防除所 9月5日付)</p> <p>(生育/作柄)</p> <p>- 8月15日現在の普通栽培の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月7日～10月6日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州北部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は9月15日頃からかなりの高温。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
福 岡	<p>(8月22日)</p> <p>【早期水稲(夢つくし、コシヒカリ)】</p> <p>- 4月中下旬頃の「夢つくし」、「コシヒカリ」の成熟期は平年に比べてやや早く、収穫作業は8月16日頃から本格化した。倒伏はほぼ認めず、収量は平年並と見込まれるもの、登熟率が高温で経過したため、白米熟粒の発生が多い見込み。また、イネカメムシによる吸汁害の発生も見られ、収量及び品質の低下が懸念される。</p> <p>【普通期水稲(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)】</p> <p>- 出穂期は、6月10日種「夢つくし」が8月8日頃、6月中旬種「元気つくし」が8月16日頃で、平年並かやや早い見込み。トビイロウンカや黄いもとの発生は平年より少ないものの、イネカメムシの発生が熊本地域で多く見られる。</p> <p>「夢つくし」の成熟期は、平年に比べやや早いと予想され、収穫は9月中旬が最盛期となる見込み。 (福岡県農業総合試験場 8月29日付)</p> <p>(生育/作柄)</p> <p>- 8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月7日～10月6日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州北部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は9月15日頃からかなりの高温。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「元気つくし」が増勢傾向となっている。県では「夢つくし」の拡大を推奨している。</p>
熊 本	<p>(生育/作柄)</p> <p>- 8月15日現在の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月7日～10月6日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州北部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は9月15日頃からかなりの高温。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの森」はリーディング品種として取組いが年々拡大している。</p>
宮 崎	<p>(9月上・中旬)</p> <p>【作物の生育状況】</p> <p>- 普通期水稲は幼穂伸長期～穂ばらみ期(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 8月28日付)</p> <p>(生育/作柄)</p> <p>- 8月15日現在の普通栽培の作柄概況は「やや不良」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月7日～10月6日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は9月15日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みさ389」への移行が進められている。</p>
鹿 児 島	<p>(作柄)</p> <p>- 8月15日現在の普通栽培の作柄概況は「平年並」(農林水産省 8月30日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月7日～10月6日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は9月15日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：熊及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を本報掲載情報で取り纏め、
注2：生育状況等(農林水産省発表資料の抜粋)については令和6年8月11日 17時時点での取り纏め、
注3：資料内容は必ずしも最新ではない。

引用資料:

農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道農政部 9月3日)、
農作物生育状況(9月1日現在)(北海道空知総合振興局 9月3日)、
農作物生育状況(9月1日現在)(北海道石狩総合振興局 9月3日)、
農作物生育状況(9月1日現在)(北海道後志総合振興局 9月3日)、
農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道胆振総合振興局 9月3日)、
農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道渡島総合振興局 9月3日)、
農作物生育・技術情報8号(日高農業改良普及センター日高西部支所、JAびらとり、JA門別町 9月3日)、
農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道釧路総合振興局 9月3日)、
農作物の生育状況(9月1日現在)(北海道上川総合振興局 9月3日)、
農作物生育状況調査の概要(9月1日現在)(北海道留萌総合振興局 9月3日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況(9月1日現在)(北海道オホーツク総合振興局 9月3日)、
水稲作況調査(9月2日現在の登熟状況)(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 9月6日)、
令和6年度水稲生育定期調査結果№6(出穂期等)(岩手県農業研究センター 8月30日)、
農作物技術情報 第6号 水稲(岩手県 8月29日)、
令和6年度産仙南稲作情報(第7号)(宮城県大河原農業改良普及センター 8月29日)、
令和6年度稲作情報第7号(宮城県亶理農業改良普及センター 8月29日)、
登米地域の稲作通信第8号追加情報(宮城県登米農業改良普及センター 9月6日)、
令和6年度産美里地区の稲作情報第8号(宮城県美里農業改良センター 9月6日)、
栗原の稲作通信令和6年度第8号(宮城県栗原農業改良普及センター 8月23日)、
令和6年度産気仙沼・南三陸稲作情報第8号(宮城県気仙沼農業改良普及センター 8月23日)、
作況ニュース(第7号)(秋田県農林水産部 8月23日)、
東南村山おおい米づくり情報(山形県村山総合支庁農業技術普及課 8月9日)、
雪若丸 技術情報 No.6(やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部 山形県農林水産部農業技術環境課 7月10日)、
米づくり技術情報 No.21(やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部 山形県農林水産部農業技術環境課 9月6日)、
酒田・飽海米づくり情報第14号(山形県庄内総合支庁酒田農業技術普及課 9月6日)、
主要な農作物の生育情報令和6年度第6号(令和6年9月9日現在)(福島県 9月9日)、
「新之助」生育速報(収穫期対策)(村上農業普及指導センター 9月5日)、
台風10号の接近に伴う被害防止対策について(石川県農林総合研究センター 8月23日)、
稲作情報№22(水稲レベルアップ委員会技術普及推進部会 作成:福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会 9月6日)、
稲作情報№23(水稲レベルアップ委員会技術普及推進部会 作成:福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会 9月10日)、
令和6年度稲作技術普及情報第18号(松本農業農村支援センター 9月11日)、
令和6年度稲作生育診断情報№5(滋賀県農業技術振興センター 8月23日)、
令和6年度兵庫県農業気象技術情報第5号(9月情報)(兵庫県 9月4日)、
令和6年度病害虫発生予報第6号(岡山県 8月28日)、
水稲(中・晩生品種)及び黒大豆の高温・少雨に対する技術対策について(岡山県農林水産総合センター・岡山県農業気象技術担当者会議 8月21日)、
2024年産「ひめの雫」の生育状況(愛媛県農林水産研究所 8月14日)、
令和6年度病害虫発生予察8月月報(高知県病害虫防除所 9月5日)、
主な農産物の生産状況(令和6年8月22日 専技情報より抜粋)(福岡県農林業総合試験場 8月26日)、
令和6年度病害虫発生予報第5号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 8月28日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(9月5日札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(9月5日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(9月5日気象庁)、
北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(9月5日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(9月5日大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(9月5日広島地方気象台)、
四国地方方向こう1か月の天候の見通し(9月5日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(9月5日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(9月5日鹿児島地方気象台)、

北海道地方方向こう3か月の天候の見通し(8月20日札幌管区気象台)、東北地方方向こう3か月の天候の見通し(8月20日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう3か月の天候の見通し(8月20日気象庁)、
北陸地方方向こう3か月の天候の見通し(8月20日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう3か月の天候の見通し(8月20日大阪管区気象台)、中国地方方向こう3か月の天候の見通し(8月20日広島地方気象台)、
四国地方方向こう3か月の天候の見通し(8月20日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう3か月の天候の見通し(8月20日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう3か月の天候の見通し(8月20日鹿児島地方気象台)、

早期天候情報(9月9日14時30分)(気象庁)、

エルニーニョ監視速報(№384)(気象庁 9月10日)、

令和6年度産水稲の8月15日現在における作柄概況(農林水産省 8月30日)
令和6年度産水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月12日)

「主要産地における水稲の生育状況等について」の取り纏めの終了についてのお知らせ

平成25年産から当機構で取り纏めを行ってまいりました「主要産地における水稲の生育状況等について」は、即時性の高い取組みが主流となるなか、その役割を見直し、令和6年産をもって終了することといたしました。改めまして、ご利用いただきありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

令和7年産以降の各産地の水稲の生育状況等につきましては、当機構ホームページの「水稲の生育状況・技術情報リンク集 <https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink/>」をご利用いただきますよう、併せてご案内申し上げます。